

三田市同和教育研究協議会は、『三田市人権を考える会』に名称変更しました！

三田市同和教育研究協議会は、昭和39(1964)年の発足以来50年以上にわたり三田市での人権啓発の主導的役割を担ってまいりました。また、当協議会の取り組みによって、同和教育をはじめとして他のさまざまな人権問題を浮き彫りにしてきました。名前を見ただけで活動内容が分かる名称、親しみもてるわかりやすい名称に変更し、より多くの方に活動に参加していただけるよう、「三田市人権を考える会」としました。同和教育にこめられた先人の願いや思いを大切に継承し、その成果や思いを踏まえ、あらゆる差別解消への取り組みをより一層強く進めていきます。

4コマ きんか

三田市人権を考える会 マスコットキャラクター「ラブピース」



〈賞〉小・中学校の部
高校・一般の部でそれぞれ
特選：1点 1万円分の図書券
優秀賞：2点 5千円分の図書券
入選：3点 3千円分の図書券



作品募集

日常の生活の中での「あたたかさ」「やさしさ」「ほのぼのした雰囲気」が伝わる「人間愛」を豊かな感性でとらえた作品を募集します。喜怒哀楽驚の5ポーズから絵を切り取り、セリフや背景などを記入して完成させてください。入賞作品については、印刷物や催しで広く活用します。

応募資格 市内に在住または在学・在勤されている人 (アマチュアの人に限り)

募集期間 7月20日(水)～9月12日(月)

入賞発表 「人権を考える市民のつどい」にて発表

日程 12月3日(土)

場所 三田市総合文化センター(郷の音ホール)

主催 三田市人権を考える会

問い合わせ 三田市人権を考える会事務局(市人権推進課)

※応募方法・応募規定などくわしくは、市役所・各市民センターなどに設置の募集ちらしをご覧ください。

三田幸せプロジェクト ～明るい未来へ～

参加無料

開催日：8月28日(日) 全体テーマ：「あなたに伝えたい私のこころ」
「幸せ」について一緒に考えましょう。多くの人的ご参加をお待ちしております。

会場	時間	分科会名	報告者
総合福祉保健センター 多目的ホール	9時30分～12時	障がいについて考える	酒井 俊子さん(三田市立富士小学校 教諭)
	13時～15時30分	多文化共生について考える	黄 光 男さん 孫 敏 男さん(兵庫在日外国人協会)
総合福祉保健センター 講座室	9時30分～12時	高齢社会について考える	橋野 弥生さん(三田楽寿荘 荘長) 勝本 政隆さん(まごの手 本庄)
	13時～15時30分	子どもの人権について考える	松村 幸裕子さん(箕面市立萱野中央人権文化センター らいとびあ 21)
三田市 商工会館	9時30分～12時	部落差別について考える	北口 末広さん(近畿大学人権問題研究所 主任教授)
	13時～15時30分	性と生について考える	源 淳子さん(関西大学人権問題研究室 委嘱研究員)

わたし No.152

出会う 気づく つながる

「子どもたちの豊かな心を育むために」

丸山 香屋子さん 広野小学校教職員

子どもの人権に目を向けたきっかけ

私が大学生だった頃、ニュースでは児童虐待について盛んに報道されていた。当時の私は、なぜこんな悲惨な出来事が頻りに起こるのか、加害者となる親はどうしてこんな酷いことができるのか、全く理解できませんでした。この「理解できない」という感情が、虐待を起してしまう親と私との間に心の隔たりをつくり、知ろうと努力することさえしませんでした。そんな自分に気づき、私は大学で児童虐待について学ぶことを決めたのです。

児童虐待を学ぶ中で気づいたこと

大学では、現役精神科医の先生が指導してくださいました。そこで伝えられる児童虐待の現状、そして子どもたちの苦悩は、私が想像する以上のものでした。実の親から信じられない程の酷い行為を受けていたにも関わらず、見捨てられることに脅え、必死で親をかばおうとする子どもたちの姿がありました。親を愛する子どもたちの気持ちが、親を愛する子どもたち、心が痛みました。虐待とは、子どもの心を根底から切り裂く残酷な行為なのだ改めて痛感しました。

子どもたちのためにできること

私が児童虐待を通して感じたことは、親子の「絆」という尊いものでした。親は、子どもの人形に成る大変大きな影響を与えます。親が発するプラスの言葉は、子ども

は、かけがえない繋がりがあると気づきました。心の中の、一番芯となる部分を築き上げるのは親であり、だからこそ親と子の間には「絆」としか呼びようのない特別な繋がりがあると感じました。児童虐待によって、子どもたちはその芯の部分で奪われていきます。ぼっかり空いた心の穴を、他人がいくら手厚くサポートしても、充たしてあげることができません。だからこそ、虐待は子どもに悲惨な結果をもたらすのだと感じました。

また、もう一つ学んだことがあります。それは、その繋がりがあからこそ、加害者となる親は子どもを虐待してしまうのかもしれないということです。自分にとって、子どもの存在が大きすぎるからこそ、親を脅かす存在となることがあるのだと思います。子どもにも暴力という行為を行ってしまふ親のほとんどが、日々の育児に奮闘し、苦悩し、そして社会から孤立しても必死に子育てをしていました。虐待はその努力の悲しい結果であり、決して虐待を起さした親が特別であったわけではないことを知りました。



ひょうご・ヒューマンフェスティバル 2016 in あこう

日時 8月20日(土) 9時30分～15時30分
場所 赤穂市文化会館(赤穂市中広864番地) 入場無料
赤穂市総合福祉会館(赤穂市中広267番地)
プログラム
◆人権講演会/落語家・僧侶 露の団娘さん
◆地元団体によるふれあいステージ
◆ヒューマンシネマ「ここから歩き始める」など
※上記以外にも、スタンプラリー、車いす体験、販売コーナーもあります。
問い合わせ (公財)兵庫県人権啓発協会 (078-242-5355)

人権擁護委員による人権相談… 7月23日(木)

問い合わせ・相談希望者は、人権推進課へ(559-5148 FAX 563-7776)